

長野圏域のことばの教室等

※ 山王小学校には難聴学級併設、西部中学校は難聴学級、長野ろう学校は難聴通級指導教室。

令和5年
現在

※ 長野県言語聴覚士会HP掲載資料より抽出。

学校名	TEL	FAX	教室受信電話	〒	所在地
須坂小学校	026-245-0071	026-248-8840		382-0013	須坂市大字須坂780
三水小学校	026-253-2004	026-253-8691		389-1206	上水内郡飯綱町大字普光寺179
三輪小学校	026-234-1251	026-234-1252		380-0803	長野市三輪8-3-2
山王小学校	026-226-4405	026-226-4558		380-0936	長野市中御所岡町30-1
川中島小学校	026-284-4102	026-284-4146	026-284-5631	381-2233	長野市川中島町上氷鉋172
通明小学校	026-292-0100	026-292-1923		388-8006	長野市篠ノ井御幣川270
西部中学校	026-234-2265	026-234-2266		380-0873	長野市新諏訪1-4-1
長野ろう学校	026-241-5320	026-244-9217		380-0803	長野市三輪1-4-9
屋代小学校	026-272-0037	026-272-1273	026-274-1948	387-0007	千曲市大字屋代2111
坂城小学校	0268-82-3161	0268-82-3162		389-0601	埴科郡坂城町大字坂城6227

長野市の
発達障害
通級指導
教室

※ 長野市の
「情報ツウ」
(令和5年度版)
より抽出。

通級指導教室の種類	学校名	所在地・連絡先
学習障害、ADHD、自閉症等の発達障害がある場合	さわやか教室 (サテライト校)	川中島小学校 (共和小学校)
	まなびの教室	鍋屋田小学校
	まなびの教室	緑ヶ丘小学校
	まなびの教室	広徳中学校
	まなびの教室	櫻ヶ岡中学校
	まなびの教室	川中島中学校

➤ 日常会話での留意点 — 今日からできること

お子さんと、会話を楽しむことを心がけて、訂正するのではなく、自然なやり取りの中で、さりげなく補って返すことが有効です。

例えば、右のイラストの例では、幼児語的な未熟な発音（赤字の部分）に対して、それを指摘することなく、自然な応答の中で、さりげなく正しい発音（緑字の部分）を交えながら、にこやかに返しています。

おかあたん、
おかちない？

おいしいおかし
があるよ。じゃ、
おかあさんが出
すからね。

➤ 相談の窓口 — 今後のため、未来に向けた安心のために

就学前後の子どものことばの相談の窓口としては、「ことばの教室」をはじめとする、通級指導教室があります。（上表）

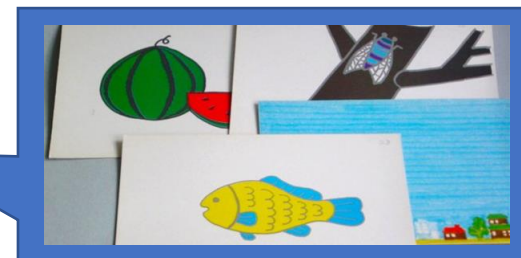
そのほか、保健所・保健センター、医療機関などにも、相談の窓口がありますので、必要に応じてご利用ください。

※ 文中の挿絵イラスト かわいいフリー素材 いらすとや <https://www.irasutoya.com/> より

②

ことばの相談に見る状態像から

～就学前後の子どもの発音・発語について～



以下、年中・男子の発話の例です。「ことばのテスト絵本*」の『テスト4』（上写真・上段）で、絵を見ながらの自由表現です。

「ブラントであとんでる。ブラントでいじわるちてる。」

このように、発音の面で、（カ行音・サ行音→タ行音）の置き換わりが認められました。また、内容の面でも、主語がない、当事者や周囲の人の様子に触れていないなど、少なめでした。

更に、「構音検査**」の『単語検査』（上写真・下段）で、絵カードを見せて単語を言ってもらうと、シ・チ・ジの音が、それぞれヒ・キ・ギに近い音になっていることも分かりました。

* 田口恒夫・小川口宏(著)：ことばのテストえほん 日本文化科学社, 1987.

** 今井智子・加藤正子・他(著)：新版 構音検査 千葉テストセンター, 2010.

長野圏域療育コーディネーター／言語聴覚士 安川 健治

〒380-0928 長野県長野市若里6-6-14 児童発達支援センター にじいろキッズらいふ

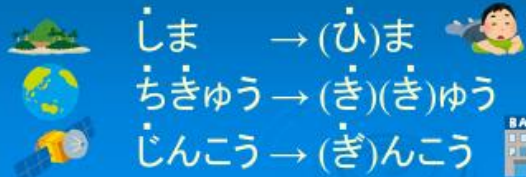
TEL 026-219-3781 業務 080-8877-1709 E-mail k-yasukawa@nagano-shajikyo.or.jp

① 「幼児語」的な発音の例



つみき → ちゅみき
すいか → しゅいか
せみ → てみ
ぼうし → ぼうち
らっぱ → だっぱ
ぶどう → ぶろう

② こもったような発音*の例



しま → (ひ)ま
ちきゅう → (き)(き)ゅう
じんこう → (ぎ)んこう

* 側音化・口蓋化など、雑音を含む歪んだ音。

※ ()内は、それに近い歪んだ音。

前のページのケースは、発音の困難とともに、話す・聞く等の困難も予想されます。就学前後（年中～小学校低学年）の時期の子どものことばの相談で、しばしば見られる状態像として、次のようなことがあります。

1. 発音の困難

① 定型発達・晩熟型

いわゆる「幼児語」的な未熟な発音です。（上の①）

② 特異的発達・不器用型

耳障りな感じのこもったような発音です。（上の②）

2. 話す・聞く等の困難

一般的な原因としては、聴覚障害、知的発達の遅れ、肢体不自由、視覚障害に伴って生じる場合などが考えられます。もし、そのような原因が認められないのに、話す・聞く等に発達の遅れや偏りがある場合は、通級指導教室（個別指導）の対象となる可能性があります。

こんな子はいませんか？

① モジモジして、なかなか決断ができない人君。



周囲の誤解 「恥ずかしいのかな」「緊張しているのかな」「何を言うのかおれたのかな」

② 誰では口数が少なく自己主張ができない日ちゃん。「家庭ではおしゃべり」と保護者。



周囲の誤解 「おとなしい子どもだな」「人見知りなのかな」

③ しゃべろうとすると力んで、足踏みをしながらかみように話す人君。



周囲の誤解 「話すだけなのに、どうして力んでいるんだろう」

④ 「お、お、お、おあさん。こーれ食べたい」と話すDちゃん。



周囲の誤解 「あわてているんだ」「ふざけているんだ」「早口だからこんな話し方になるんだ」

それぞれ、以下のような吃音の症状である可能性があります。

- ① 離発 ② 詰すのをやめてしまう。あきらめてしまう。（二次的症狀）
③ 力む、足踏みをする（伴っておきる症状）。離発 ④ 通発、伸発
※あわてたり、緊張したりしていても、吃音はおこります。

「吃音啓発用リーフレット」
広島市きつおん親子カフェ より

【信頼できる情報源】吃音ポータルサイト

<https://www.kitsuon-portal.jp/index.html>

これは、啓発リーフレットの一例です。

吃音のお子さんは、単にことばがつかえるだけでなく、ほかの表し方をする場合もあります。

もし、あなたの身近に吃音のお子さんがいることに気づいたら、正しい理解に努めましょう。

これは、金沢大学の
小林 宏明 先生
が運営するHPです。

3. 流暢さの困難

<つかえ方>

<発話の一例>

- | | | |
|-------------|--------------|----|
| ① 語頭音の繰り返し | ば、ば、ばくは... | 連発 |
| ② 語頭音の引き伸ばし | ばーくは... | 伸発 |
| ③ 語頭音の詰まり | (...) ばくは... | 難発 |

このように、語頭（文頭）の音でつかえることが、一定期間、一定頻度で認められる場合、吃音など、流暢さの困難がある可能性があります。

➤ 身近な大人の対応のしかた — 基本的留意事項

☆ 「はっきり言ってごらん。」など、言い直しを求めることはいっさいせず、話の中身に意識を向けて、しっかり聞くことに努めましょう。

☆ よかれと思って、軽率な助言や慰めは禁物です。
専門機関で専門職に相談しましょう。 ➡ 次頁参照